

令和7年第4回姫路市議会定例会（未定稿）

令和7年12月8日（月）

○前川藤枝議員（登壇）

おはようございます。公明党の前川藤枝です。

通告に従いまして、6項目質問させていただきます。

1項目めは、重点支援地方交付金についてお伺いいたします。

政府は11月21日、物価高対応などを柱に大型減税などを含めて21兆3,000億円規模の総合経済対策を閣議決定しました。このうち、自治体が独自の物価高対策に柔軟に活用できる重点支援地方交付金については2兆円が計上されています。

重点支援地方交付金には、食料品の物価高騰に対する特別加算や物価高騰に伴う子育て支援、消費下支え等を通じた生活者支援などの生活者支援と医療・介護・保育施設、学校施設等に対する物価高騰対策支援等の事業者支援があります。

また、エネルギーコストの負担軽減もその1つです。重点支援地方交付金は、自治体の実情に応じた幅広い支援策に活用することができます。

まず、昨年の重点支援地方交付金を活用した主な支援策をお聞かせください。また、その評価についてもお聞かせください。

今回の重点支援地方交付金の推奨メニューには、米など食料品の高騰による負担を和らげるため、電子クーポンやおこめ券のほか、公明党が提案した事務コストがかからず早く実現できる水道料金の支援など、家計の支援を後押しする政策が盛り込まれています。これまでの支援策を検証した上で、効果的で速やかな物価高対策が必要と考えます。

本市はこのたびの重点支援地域交付金をどのように活用されようとしているのか、お考えをお聞かせください。

2項目めは、姫路市医師会看護専門学校への支援と将来に向けた看護人材育成について、本市の姿勢についてお伺いします。

少子高齢化が進展する中、地域医療を支える看護人材の確保は喫緊の課題であり、本市においても例外ではありません。その中核を担う人材を育成してきた姫路市医師会看護専門学校の存在は、非常に重要であると認識しております。

我が公明党は姫路市医師会の先生方と懇談する機会があり、その際、近年同看護専門学校では募集人数を満たさ

ない状況となり学生数が減少傾向にあるほか、教育環境の基盤となる校舎の雨漏りなどの老朽化という具体的な問題、それに伴う運営上、経済的な課題を聞かせていただきました。

この地域医療の根幹に関わる課題に対し、本市がどのように現状を認識し対応していくのか、以下2点について当局のご見解をお伺いします。

1点目は、設立以来の支援実績と現状認識について。

平成17年設立以来、長きにわたり地域医療に貢献する看護師を輩出してきた姫路市医師会看護専門学校に対し、本市は設立当初から現在に至るまで、具体的にどのような支援を行ってきたのでしょうか。

これまでの支援実績と受験者数と校舎の老朽化といった現在の課題に対する本市の認識についてお示してください。

2点目は、今後の看護人材確保と学校運営への具体的な対応についてお伺いします。

高齢化社会の進展に伴い、看護人材の必要性はますます高まっています。本市としてこの状況を深刻に受け止め、将来にわたり安定した看護人材を確保するため、具体的にどのような支援策を講じるお考えでしょうか。学校運営の基盤強化に向けた支援についてお答えください。姫路市民が必要とする看護人材の輩出に、本市の支援を期待いたします。

3項目めは、令和8年9月から始まる中学校部活動地域展開「姫カツ」・「姫カツ連携活動」についてお伺いします。

1点目は、地域展開のスケジュールについてお伺いします。

中学校部活動は、スポーツや文化活動を通じて子どもたちの健やかな成長を促すという役割と自主性や創造性を育み、仲間との協力や人間関係を築く大切な学校教育の一環として行われてきました。

しかし、近年では少子化の影響で運営することが難しい状況にあり、学校や地域によっては生徒の希望がかなえられないなど不公平感も生じます。

また、本市では、令和7年度学校園教育指針（姫路市教育委員会）において、教職員が子どもの教育に注力できる環境構築を目指す中で、部活動の地域展開も大切な要件となっています。

スムーズな部活動の地域展開について、本市はどのようなスケジュールで行おうとしていますか、お聞かせくださ

い。

2点目は、姫カツクラブ運営管理を行う登録スポーツ団体の募集を実施した結果についてお伺いいたします。

陸上、水泳、体操、柔道、相撲、吹奏楽の6つのスポーツ・文化活動は、市内の競技者会などが主体となって体制をつくり、指導者を決定することになっています。

軟式野球、サッカー、男女バレーボール、男女バスケットボール、剣道、ソフトボールの8競技を対象に1次募集を行い、74団体が登録されました。目標の100団体に届かなかったことで、種目によっては現在の部員数に対して団体数が足りない女子バレーボールや男女バスケットボール、地域に偏りが出ている軟式野球やサッカーボール、剣道、そしてバドミントンやダンス、料理など、部活動になかったクラブやパラスポーツなどの地域団体を対象として公民館でレッスンを行うなど、幅広い世代の交流につなげたいと、姫カツ連携団体を令和8年1月18日締切りで募集を行っています。

また、個人指導者と登録団体をマッチングする指導者バンク登録制度の申請も呼びかけています。

進捗状況についてお聞かせください。

また、指導者バンク登録制度の申請はどれくらいの方が申請されていますか、お聞かせください。

3点目は、希望する部活動の対応についてお伺いいたします。

この募集を受けて学校部活動からの移行に当たり、合同練習型、部活移行型といった地域や競技の実情に合わせて全市、ブロック、近隣校区同士学校の枠を超えた活動単位、校区単位による姫カツが始まります。

令和8年4月から中学校に入学する生徒にとっては、令和8年8月まで部活動で、令和8年9月以降は姫カツ・姫カツ連携活動に移行する中で、先を見通して自宅から通える姫カツ・姫カツ連携活動の種目も視野に入れながら部活動を決定していく生徒もいるのではないのでしょうか。

私も中学校入学する際に、当時のワールドカップバレーボールを観戦して感動し、その影響でバレー部に入部した経験があります。

子どもたちが望む部活動に参加できるように、来年度入学する新1年生に対して早急にクラブ数、種目数、エリア分布を示していただきたいと思います。

そこで、平日の部活動についてですが、エリア区分を見えますと校区の偏りが目立つように見えます。活動拠点

が遠方となる地域では、時間が限られて思うような練習ができないように思います。希望する部活動を諦めなければならない可能性もあります。

本市はどのように対応されるのかをお聞かせください。

4点目は、障害のある生徒の「姫カツ」についてお伺いいたします。

東京2020パラリンピック競技大会や東京2025デフリンピックを通じて、様々な人にスポーツの価値が再認識されています。

中学校の部活動が地域移行する方針に従い、特別支援学校中等部も対象に含まれています。障害のある生徒については、障害の種類や程度に応じた配慮がいていると思います。

また、指導者バンク登録制度の申請についてお伺いしましたが、障害者スポーツ指導員の登録はありましたでしょうか。

障害のある生徒の「姫カツ」はどのように進めているのか、お聞かせください。

4項目めは、アマチュアスポーツの支援についてお伺いします。

アマチュアスポーツは報酬を目的に競技するのではなく、楽しみながらスポーツを純粋に愛好する人をアマチュアといい、アマチュアのみによって行われているスポーツ種目などをアマチュアスポーツと言います。

1点目は、各種資格の取得支援についてお伺いします。

中学校部活動地域展開に伴い、地域クラブ活動を躍進するため、スポーツ指導者及び審判員の養成と資質の向上を目的として指導者資格または審判資格取得費用を補助する自治体が増えています。

本市では、姫路市少年団の登録団体に対し、指導者の確保、団員拡大、団体活動の活性化の支援として補助金を交付されていますが、指導者の指導者資格、審判資格の取得についての助成はありません。

中学校部活動地域展開に合わせ、姫カツクラブを新たに立ち上げようとする団体もあるとお聞きしています。

新しく立ち上げたクラブチームが大会に出場するときには、公認スポーツ指導者の資格、主催団体が定める特定の資格保有が求められます。また、スポーツ21に加入している各団体競技など、各クラブチームも各種資格保有が同じく求められます。

クラブチームスタッフとして無償で活動されているコーチは、登録料、資格登録料は全て自己負担で取得されて

いるとお聞きました。

各種目によって様々ではありますが、4年間で受講料、登録料、資格登録料合わせて自己負担は1万円～4万円ぐらいいとも聞いています。

青森市では、スポーツ指導者資格取得助成として講習等の受講料、テキスト代及び資格公認団体への登録に係る登録料の申請、認定料の対象経費の2分の1以内額を助成しています。

紋別市では、それに加えて審判資格の取得についても補助対象になっています。

また、松本市はパラスポーツの普及・振興を図るため、パラスポーツ指導員の資格取得にかかる経費の一部に対し、パラスポーツに対しても補助金を交付しているそうです。

専門的な資格取得によって自身の競技経験や専門知識を生かし、また、子どもの成長に貢献しているアマチュアスポーツ指導者の資格取得支援が必要と考えます。

本市のご所見をお聞かせください。

2点目は、スポーツトレーナーによる講習会についてお聞きます。

スポーツトレーナーは、スポーツ選手の体の調子を整え、最大限にパフォーマンスを高めるためのサポートやトレーニング指導のほか、けがの予防、治療、再発防止、メンタルケアなどの役割を担っています。

スポーツトレーナーの方が、「子どものときのけがは早期の治療が大切で、試合を優先するなどして治療が遅れると、後々大人になってから再発し悪化するケースがある」とお聞きました。

日頃の練習に加え、試合が多い土日などの不意なけがの早期対応などにスポーツトレーナーは必要だと思いますが、各スポーツクラブチームにスポーツトレーナーの配置は難しいと思われます。

本市では、スポーツ選手や指導者向けの講習会をいろいろと開催されています。そこに選手のためのスポーツトレーナーによる講習会が必要だと考えます。本市のご所見をお聞かせください。

5項目めは、音声コードの普及についてお伺いします。

音声コードとは、視覚に障害がある方や文字を読むのが難しい方々に紙媒体に掲載された印刷情報をデジタル情報に換えて、その情報を提供する特殊な二次元コードです。

文字情報を音声にする方法として印刷された音声コー

ドを活字文書読み上げ装置や、スマートフォン「U n i - V o i c e」や専用のリーダー「S P O Tコード」を使用して読み取ることができます。

先日、音声コードの基本操作講習会に出席してきました。

コード内に文字情報が含まれており、読み取られたコードは音声データとして再生され、視覚的な情報を音声で届けます。これにより、印刷物の内容を理解することが可能となり、音声コードは、公共機関が発行する通知物や冊子などで広く活用されています。封筒などに音声コードが付いているかどうかは、紙媒体の端に切り欠きと呼ばれる半円の穴で判断します。

視力が落ちた高齢者の方にとっても情報ディバイドの改善もでき、視覚障害者の方には音声コードによる情報は大切な情報源となります。

1点目は、音声コードの活用についてお聞きます。

公的な通知や広報、各種保険のお知らせ、公共料金の通知等に音声コードは必須ではないかと考えます。本市の活用状況についてお聞かせください。

2点目は、音声コードを活用した耳で聞くハザードマップについてお伺いいたします。

近年、異常気象は激甚化・頻発化しており、水害・土砂災害の気象災害をもたらす豪雨など多発しており、ハザードマップの重要性は高まっています。

耳で聞くハザードマップは、視覚に障害のある方でもスマートフォンやタブレットを使って災害時に登録した住所の注意報・警報や避難情報など、現在位置の災害リスクを音声で聴くことができます。

また、視覚に障害がある方や点字ディスプレイを介しての盲聾の方、小さい文字が読みにくい高齢者の方でも使うことができます。

現在地の災害リスク情報、最寄りの避難場所へのルートも音声と方向を示す効果音で誘導してくれるそうです。これによって、耳で聞くハザードマップにより視覚障害者が自ら事前学習ができ、自立できる環境ができます。

災害から命を守るためには、災害ごとの知識や情報収集など日頃からの備えが重要と考えます。視覚障害者を取り巻く環境改善のため、耳で聴くハザードマップの導入が必要と考えます。本市のご見解をお聞かせください。

6項目めは、防災の取組についてお伺いします。

1点目は、ひめじ防災マイスターについて。

本年11月に防災意識の高揚と地域防災の向上を図るた

め、山崎断層帯地震による直下型地震を想定した兵庫県・播磨広域合同防災訓練が、姫路市大手前公園、にぎわい交流広場、姫路港、播磨地域の市町で地域連携して実施されました。

ドローンによる被害情報収集や救出救助などの訓練があり、姫路市立手柄小学校では避難所設置運営訓練、ペット同行避難訓練が行われました。

地域の防災活動の担い手と高い防災知識やスキルを持った人材育成を目的に認定されたひめじ防災マイスターの方々も運営に携わったとお聞きしています。

令和6年12月の本会議において、ひめじ防災マイスター認定制度について質問させていただきました。

地域のつながり、防災力の向上には欠かせないひめじ防災マイスターが発足して1年がたちます。現在までの認定の状況、活動についてお聞かせください。

2点目は、防災訓練について伺います。

阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えました。各地域では様々な防災訓練が行われています。

また、スポーツ庁では、災害に直面した際、落ち着いて避難や救助活動ができるよう、内閣府が2025年度に確保している事前防災対策総合推進費を活用した事業としてスポーツを通じた防災教育に乗り出し、全国展開を目指しています。誰もが直面し得る災害に備えた体力づくりに向けて、地域の住民の運動・スポーツに対するモチベーションと防災に対する意識を同時に高めるための取組です。

防災教育を通じて、防災グッズなどの備えの必要性の理解は徐々に広まりつつあります。災害発生時の避難、救助行動ができる健康、身体能力を平時から身につけることの備えも必要だと考えます。

本市では、平成20年度姫路市消防防災運動会、愛称まもりんピック姫路を開催し、第14回防災まちづくり大賞・総務大臣賞を頂いています。

幼児から高齢者の方々まで楽しくスポーツやイベントなどを通して、災害時に適切な行動と知識を自然に身につけることのできる防災訓練の普及は大切だと感じます。

また、こういったスポーツやイベントを防災と結びつけることで多くの方が参加されるのではないのでしょうか。自治会、学校などでも恒例行事として防災訓練は行われていますが、本市のご所見をお聞かせください。

次に、スポーツ庁が進めるスポーツを通じた防災教育の推進についてお聞きします。

2026年10月に市民の憩いの場やスポーツの場として、人、自然、手柄山平和公園全体をつなぐひめじスーパーアリーナが開業いたします。災害時には、救援物資搬入・搬出拠点などの広域的な防災拠点として整備されています。

防災訓練にひめじスーパーアリーナ等のスポーツ施設を活用することで、スポーツを通じた防災教育の取組を大規模に展開できると考えます。

例えば、トップアスリートによる水難、水害の実施的な対応、着衣泳を学んだりできるのではないかと考えます。

また、スポーツチームやアスリートの方々の力を借りることにより、アスリートの発信力や訴求力によって市民の防災への意識が高まり防災啓発にもつながると考えます。本市のお考えをお聞かせください。

以上で、私の第1問を終わります。

○石堂大輔議長

岡本副市長。

○岡本 裕副市長（登壇）

私からは、前川議員のご質問中、4項目めのアマチュアスポーツの支援についてにつきましてお答えいたします。

まず、1点目の各種資格の取得支援についてでございますが、アマチュアスポーツ指導者や審判員は、市民の皆様とのスポーツ活動におきまして、専門的かつ正しい技術や知識を伝えるとともに、競技会等を公正に運営するために重要な役割を担っているものと考えております。

そのため、本市におきましては、姫路市スポーツ協会の加盟競技団体や姫路市スポーツ少年団への補助事業を通じて、指導者や審判員の養成や資質向上につながる支援を行っているところでございます。

今後、中学校部活動地域展開によりスポーツを支える指導者や審判員の重要性がさらに高まることを踏まえ、資格取得や登録などにかかる費用の支援につきましても、他都市の事例も参考にしながら検討してまいります。

次に、2点目のスポーツトレーナーによる講習会についてでございますが、市民の皆様が安全にスポーツ活動に取り組むためには、日頃から適切な指導を受けられる環境づくりが重要であると認識しております。

本市におきましては、令和4年度から医師や理学療法士等のスポーツトレーナーを講師としてお招きし、競技者や指導者向けにテーピングなどの実技指導を中心とした講習会を開催するなど、競技者のパフォーマンス向上を図るとともに、事故の未然の防止や応急処置等についての知識

や技術の普及を行うスポーツメディカル普及事業を実施しております。

引き続き、競技者及び指導者に必要な専門的知識やノウハウについて効果的に学べる機会を確保するとともに、スポーツ医学の分野などとも連携を強化し、市民の皆様が安心してより安全にスポーツを楽しんでいただけるよう進めてまいります。

以上でございます。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長（登壇）

私からは、1項目についてお答えいたします。

まず、昨年の重点支援地方交付金を活用した主な支援策とその評価についてでございますが、物価高騰の影響を受ける生活者への支援策といたしまして、約6万3,000世帯の住民税非課税世帯への給付金事業のほか、子育て支援枠やシルバーデジタル枠を設けたプレミアム商品券の発行、市立小・中学校及び特別支援学校における給食食材費高騰分の公費負担などを実施してまいりました。

また、事業者への支援策といたしまして、事業活動に対するエネルギーや食料品等の物価高騰の影響の緩和を図るため、高齢者等福祉サービス事業者などへの給付金や地域公共交通事業者への補助金の交付などにも取り組んでまいりました。

これらの施策は、家計の負担軽減や事業経営の安定化に一定の寄与ができたものと考えております。

次に、このたびの重点支援地方交付金をどのように活用しようとしているのかについてでございますが、新たに策定された国の総合経済対策において、第1の柱として生活の安全保障・物価高への対応が設けられ、同交付金に、食料品の物価高騰に対する特別加算が措置された補正予算（案）が編成されるなど、生活者に対する食料品の物価高騰への支援に重点が置かれております。

また、中小企業・小規模事業者が賃上げや設備投資に踏み出せる環境を整備するため、中小企業・小規模事業者の賃上げ環境整備支援メニューが追加されるなど、内容の充実が図られております。

本市といたしましては、これまでの取組の成果や市民・事業者の皆様のニーズを踏まえながら、国の総合経済対策との整合性を図りつつ、本市の実情に応じた効果的な支援策を検討しているところでございます。

今後、重点支援地方交付金をはじめ国補助金を最大限活用し、厳しい物価高騰から市民の皆様の暮らしを守り、事業者の皆様の活動を支える足元の物価高対策に最優先で取り組むことを基本方針として、本市経済対策を取りまとめてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

福本健康福祉局長。

○福本裕丈健康福祉局長（登壇）

私からは、2項目め及び5項目めの1点目についてお答えいたします。

まず、2項目めの姫路市医師会看護専門学校についての1点目、支援の実績と現状についてでございますが、平成17年度の設立当初から運営補助を実施しており、ここ数年の補助実績は約3,000万円で推移し、令和6年度においては空調設備に係る大規模改修費1億1,520万円を含む1億3,669万7,000円の支援を実施しております。

これまではおおむね定員を満たす入学生を確保しておりましたが、令和7年度の入学生は定員80名に対して54名にとどまり、少子化や大学志向の高まりを背景に定員確保が困難な状況となっております。

そのため、令和8年度募集からは、新たに総合型選抜入試の導入やオープンキャンパスの開催回数を増やすなど募集活動を一層拡充することで学生確保につながるよう、取り組んでいると聞いております。

また、設立から20年以上が経過し、施設の老朽化が見られると認識しております。施設の改修につきましては、市の公共建築物保全計画の大規模改修の標準ルールに照らし合わせるとともに、現在、姫路市医師会と協議を重ねている医師会看護学校の在り方協議の結果も踏まえ、検討しているところでございます。

次に、2点目の看護人材確保と学校運営についてでございますが、看護人材の確保につきましては、姫路市医師会看護専門学校の運営のみならず、姫路市全体でどのように看護師を確保していくのかを総合的に検討する必要があると考えております。

また、市内の看護師養成機関と意見交換を行いながら、新卒者への就職奨励金の創設や、多くの学生が市内医療機関等に就職してもらえるよう動機づけとなる支援策について検討をいたしております。

学校運営につきましては、今後の看護専門学校の在り方

について姫路市医師会と協議を重ねており、その中でどのような支援を行っていくべきかを検討いたしております。

次に、5項目めの音声コードの普及についての1点目、音声コードの活用についてでございますが、音声コードは、視覚障害者にとって重要な情報取得手段であると認識しております。

職員に対しては、かしネットに障害者差別解消の推進に関する姫路市職員対応ガイドラインを掲載し、視覚障害者の合理的配慮の提供を率先して取り組むよう、音声コードの使用を推奨しております。

本市における直近2年間の活用事例としましては、障害福祉課では交通助成案内通知、福祉総務課では戦没者追悼式次第、地域福祉課では社会福祉大会プログラム、選挙管理委員会事務局では参院選の投票のお知らせ券の外封筒などで活用しております。

今後は、全庁的に音声コードの活用を促すために庁内通知を発出するなど、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法及び障害者差別解消法に則した対応を促進していけるよう、さらに周知を図ってまいります。

以上でございます。

○石堂大輔議長

平山教育次長。

○平山智樹教育次長（登壇）

私からは、3項目めについてお答えいたします。

まず1点目、地域展開のスケジュールについてでございますが、令和8年9月からの休日の部活動地域展開に向け、今後、各中学校の入学説明会、ホームページ等において保護者や児童生徒に丁寧な情報発信を行ってまいります。

加えて、活動開始までに市が主体となり参加者募集や指導者研修を実施するとともに、学校部活動と姫カツクラブの指導者との交流や情報交換の機会を設けるなどして、スムーズな地域展開の実現を図ってまいります。

また、令和8年1月10日にはアクリエひめじで姫カツシンポジウムを開催し、保護者をはじめ市民の皆様に周知を図るとともに、トップチームの関係者等を招いてパネルディスカッションを行い、地域展開による新たな価値や可能性についてともに考える場にできればと思っております。

次に2点目、姫カツクラブの登録団体についてでございますが、姫カツクラブの登録団体につきましては、2回の

募集を経て、団体募集競技において101団体を登録いたしました。

さらに、活動場所に地域的な偏りがある種目を対象として登録団体の追加募集を行い、調整を進めております。

次に、姫カツ連携活動につきましては、独自運営を行う民間団体や公民館、スポーツクラブ21等の多種多様な団体が登録の意向を示していただいております。

指導者バンク制度の申請状況につきましては現時点で15件の登録があり、今後も多くの指導者が参画できるよう周知を図ってまいります。

次に3点目、希望する部活の対応についてでございますが、参加者の移動の負担を少なくし、居住地域の近くで子どもたちが希望する活動に参加できるためにも、より多くの活動拠点を確保できるよう、姫カツクラブと姫カツ連携活動の団体・指導者の募集を継続してまいります。

また、中山間地域などの公共交通空白地帯におきましては、現在、スクールバスを活用した送迎の実証事業を行っており、利用状況等を踏まえて来年度以降の継続を検討してまいります。

次に4点目、障害のある生徒の「姫カツ」についてでございますが、現在、指導者バンクの登録者内に障害者スポーツ指導員の資格保持者は確認できておりませんが、姫カツ連携活動においては、障害の有無にかかわらず誰でも参加できる活動の実現も目指しております。連携団体の募集に当たり、障害者スポーツの関係部局や関係団体との連携を図り、周知を行ってまいります。

以上でございます。

○石堂大輔議長

村田危機管理担当理事。

○村田 泉危機管理担当理事（登壇）

私からは、5項目めの2点目及び6項目めについて、お答えいたします。

まず、5項目めの2点目についてでございますが、本市における視覚障害者への情報伝達手段として、防災行政無線の放送が自動配信される登録制電話配信サービスをはじめ、防災アプリ「全国避難所ガイド」の読み上げ機能や戸別受信機などプッシュ型のツールを活用し、気象警報や避難情報などを提供することとしております。

また、定期的な災害情報の入手に関わる説明会や福祉団体への訪問などを通して、日頃からの備えについて周知啓発を行うほか、地域と連携した災害時要援護者台帳の整備

や、避難時に必要な支援等を明記した個別避難計画の作成にも取り組んでおりますが、視覚障害者自らがハザードマップを活用できる環境としては十分な対応ができていない状況があります。

議員ご提案の、視覚障害者向けアプリ「U n i－V o i c e B l i n d」内の耳で聴くハザードマップは、災害時の避難情報はもとより、平時からハザードマップによる災害リスクや避難場所など地図面の情報を音声で確認できるため、視覚障害者が災害時に適切な行動を取っていただく上で大変有効なツールであると考えます。

一方では、本ツールの利用契約先が、都道府県、特別区、政令指定都市に限定されていることから、今後、県とも情報共有を図りながら、視覚障害者への支援体制のさらなる充実に努めてまいります。

次に、6項目めの1点目について、まず、ひめじ防災マイスターの認定状況でございますが、昨年度の創設から2年間で10代から80代までの183名を認定し、男女の比率もおおむね均衡したものとなっております。

次に、活動状況でございますが、本年11月末現在、延べ90名の方に、本市が依頼する地域の防災訓練や防災講座などに参加していただき、防災資機材の取扱いや非常用持出品の説明のほか、認定講座においても、グループワーク等の進行役として活動していただいております。

また、先月開催した姫路市総合防災訓練・防災フェアでは、J R 姫路駅での帰宅困難者対策訓練のほか、市立手柄小学校での避難所設置運営訓練やペット同行避難訓練においても支援員として活動していただき、本市の防災活動への理解を深めていただきました。

今後とも、自助・共助の力を高める取組として、より多くの市民の皆様がマイスターとなって習得した知識や技術を発揮し、地域で活躍していただく姿を目指し、制度の充実・強化を図ってまいります。

次に2点目についてでございますが、地域の防災訓練は、知識や技術の習得はもちろんのこと、訓練を通して築かれる顔の見える関係づくりが地域防災力の向上に重要な役割を果たしている反面、若い世代の参加が少ないなどといった課題を抱える地域も少なくないものと認識いたしております。

議員ご提案の、スポーツやイベント等と防災を結びつけた取組として、市内では地域の運動会に防災の要素を取り入れた種目を設けたり、ウォークラリーやスタンプラリー、

防災クイズなど防災知識と技術を楽しみながら学べるイベント形式により、幅広い世代の方々の参加を促している取組もあります。

引き続き、市政出前講座や地域防災力向上研修、自主防災会から相談があった際など、様々な機会を捉え、これら好事例の普及・啓発にも努めてまいります。

次に、今秋よりスポーツ庁が策定中のスポーツを通じた防災教育推進モデル構築事業についてでございますが、当該事業は、災害発生時に、避難や救助ができる健康・身体能力を平時から身につけながら、スポーツ競技を通じて防災知識・技術を楽しく学べる防災教育プログラムを新たに開発するものであります。

プログラムに楽しさや競技性を持たせ、防災教育への参加のハードルを下げつつ、発災時に役立つ判断力・行動力・体力を鍛えながら、防災知識を高めようとする本プログラムの構築により、子ども、働く世代、高齢者など、幅広い住民参加が期待できます。

地域防災力の底上げにも有効であることから、スポーツチームやアスリートの活用など今後示される当該事業の成果・内容を踏まえつつ、防災教育や防災訓練へのプログラムの活用について調査研究を進めてまいります。

以上でございます。

○石堂大輔議長

3 番 前川藤枝議員。

○前川藤枝議員

それぞれにご丁寧なご答弁ありがとうございました。

第2問を早速させていただきます。

姫カツについてでございますが、ソフトボール競技の普及啓発のため、全国でソフトボール教室を開催している元日本女子ソフトボールの監督だった宇津木妙子さんと直接お話しする機会がありました。この方はソフトボールに興味を持ってもらいたいと、今、全国で教室を開いておりますが、スポーツを通してコミュニケーション能力を身につけ、努力は裏切らないことや、礼儀、そして挨拶などの生活ルールを学んでほしいと言われております。そしてスポーツに限らず何でもいいから夢中になれるものに出会い、そこで人間性を身につけてほしいとも言われておりました。

子どもたちが姫カツを通して充実な中学校生活を送れること、将来にわたり、子どもたちがスポーツ文化芸術活動に継続して楽しめる姫カツを願っております。

もう一度姫カツについての、これからの将来の決意も込めてご答弁をお願いしたいと思います。

また、次に、音声コードについてお伺いいたします。

この音声コードが、今年7月に行われた参議院議員選挙の投票のお知らせ、その投票のお知らせする音声コードがついておりました。

二次元コードを読み取ると、音声コードの内容は全て平仮名で、参議院選挙投票のお知らせですと記載されていたそうです。

補助者の方が代読するとき、全て平仮名だけだと本当に読み手は大変読みづらいとのご意見もございました。

また、その封筒の中の投票のお知らせカードには名前、住所と、また投票所などが記載されていますが、音声コードがないため読み取れなかったそうです。

音声コードには活字を含めて800文字のテキストデータを記録することができるとお聞きしております。期日前投票などの情報も入れてもらおうと、さらに便利になるとのお声も聞いております。

視覚障害のある方が自立し社会参加していくためには、この情報のバリアフリー化が重要と考えます。

また、申請をされると、その鍵、鍵かけですかね、反映の穴が空くっていう、その申請、音声コードがつくというふうにもお聞きしたんですけども、どうかその周知を、聞き取りにくい方に本当に音声コードで目に見えない方々に音声コードで聞けるような体制で、また周知をどのようにしていただけるのかなっていうふうに思っておりますので、どうか本市のご所見、またお聞かせいただきたいと思います。

私の第2問を終わります。

○石堂大輔議長

福本健康福祉局長。

○福本裕丈健康福祉局長

お答えいたします。

どのような音声コードが視覚障害者にとって有益といえますか、聞きやすい、情報を取得しやすいかというところも、引き続き各部署とともに検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

平山教育次長。

○平山智樹教育次長

議員がご指摘のとおりだというふうに私も思っております。

その中で、やはり中学、姫カツをすることによりまして、中学生がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる環境づくりに努めていきたいと考えております。

そのためにも、あらゆる様々な人たちのお力を借りながら、子どもたちがいろんな形に参加できる機会の確保に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大議長

以上で、前川藤枝議員の質疑・質問を終了します。